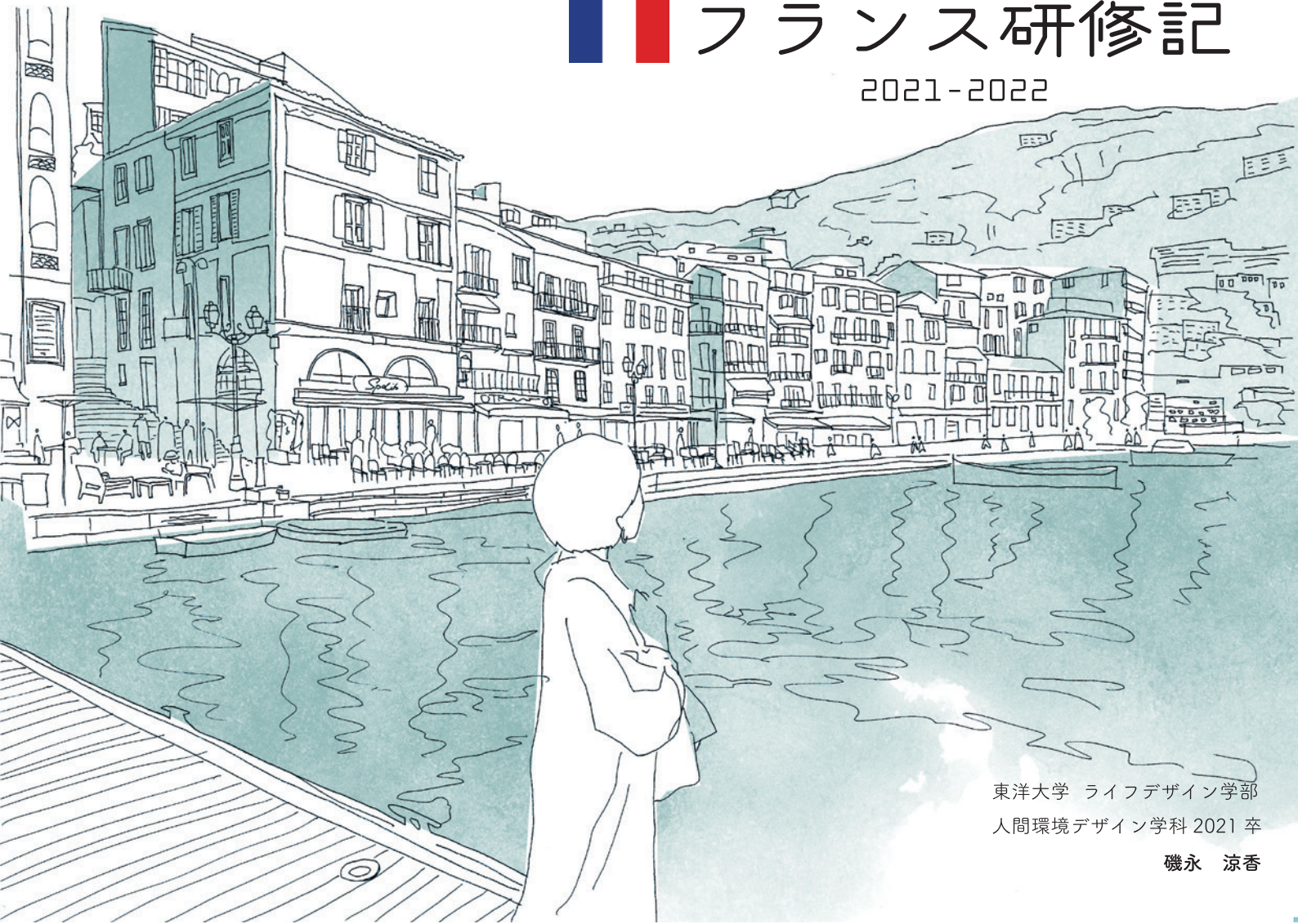


# フランス研修記

2021-2022



東洋大学 ライフデザイン学部  
人間環境デザイン学科 2021 卒  
磯永 涼香

## はじめに

2021年11月30日から二か月間フランス（パリ）へ渡航しました。卒業設計コンクールで頂いた研修費用を有意義に使うため、コロナ化での海外インターンシップを実施しました。以前から興味のある①フランスの街並みを研究すること、②海外建築事務所でインターンシップを体験し「働くとは何か」を思考すること、③新たな視点・知見を広げること、以上三点を研修目的としました。

今回の研修旅行では、ウィズコロナ時代のフランスと日本の生活、新型コロナウイルス蔓延に対する国の動き、働き方や働くことへの考え方、街並みの形成のされ方など、様々な日本との「違い」を身を持って学ぶ研修となりました。建築や街のスケール感やボリューム感、背景、空気感、香りなど、五感を働かせて体験できたことは非常に大切な財産になりました。ここでは、フランスの街、インターンシップ、新しい建築スポットについて、掲載させていただきます。



## フランス共和国

首都：パリ  
人口：約 6775 万人 (2019 年 1 月時点)  
面積：約 55 万キロメートル 日本約 1.5 倍  
公用語：フランス語



Suzuka Isonaga  
**磯永 涼香**

はじめて一人で海外に行きました。隠病ながらも、多岐にわたる好奇心と行動力には自信があります。現在、絶賛就職活動中です。

inst : @suu\_recollection / @suu\_tokimeki

mail : suzukaisonaga2021@gmail.com

1998.11 東京都足立区に生まれる  
2017.04 東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科入学  
櫻井義夫研究室在籍  
2021.03 卒業設計コンクールにて埼玉建築設計監理協会賞を受賞  
2021.04 東京理科大学大学院 理工学研究科建築学専攻 入学  
西田司研究室在籍  
2021.11- フランス研修 (2ヵ月) 田根剛設計事務所インターンシップ  
2022.01 隈研吾事務所 (パリ) インターンシップ

# フランスの街

## 様

々な地域のフランスの街並みを調査したかったため、フランス各地に移動し、視察を行い、街ごとによる違いを比較検討した。地域によって素材・雰囲気・色合いなどが全く異なり日本とは異なる街並みの形成のされ方が興味深いと感じた。ここでは訪れた中でも特徴のある6つの地域を厳選し掲載する。



▲フランスマップ

※新型コロナウイルス感染防止を最大限に考慮し、すべての移動をレンタカーとしたうえで、飲食店等には一切入らず、人との接触を可能な限り避けました。(完全なバブル方式)

- 1\_カオール
- 2\_トゥールーズ
- 3\_サン・ギレム・ル・デゼール
- 4\_グリモー
- 5\_ヴィルフランシュ・シュル・メール
- 6\_コルマル

## 📍カオール (Cahors)

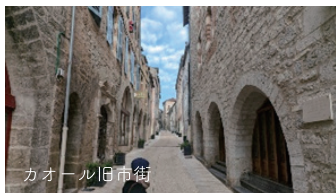


サンティエヌヌ大聖堂

ロット川に反射する美しい街並み



ヴァラントレ橋



カオール旧市街

カオールの旧市街は、ロット川沿いの半島に建てられ、通りや建築物には心地よい雰囲気がある。急な丘や石灰岩の乾燥丘に囲まれ、ロット川の曲がり角に囲まれた都市は、古代や中世から多くのモニュメントが豊富。町全体は、色素の薄めの白・薄茶色・クリーム色で構成されたイメージ。旧市街地はさほど広くなく、早朝に一時間程度で散歩できる規模だった。ヴァラントレ橋は世界遺産であり、旧市街の街並みと調和していて美しい。

## 📍トゥールーズ (Toulouse)



焼いたレンガが印象的な路地



ボン・ヌフ橋 (1543年)



キャピトル広場

赤レンガとテラコッタ瓦の建物が多いことから、別名バラ色の都市と呼ばれる。フランスの建築物は、一般的にライムストーン(石灰岩)を用いられることが多いが、トゥールーズ周辺には適した石切り場がないため、焼いたテラコッタ・レンガを積み重ねて資材としたためである。バラのような赤・オレンジ・ピンク色で構成された町並みでどこか落ち着くような印象を受けた。



赤い教会  
(トゥールーズサンセルナン教会)

## 📍 サン・ギレム・ル・デザール (Saint-Guilhem-le-Désert)



村の象徴であるブラタナスの樹を囲って人々が集まる



お店が立ち並ぶ広場



小さな扉や窓の印象的な路地

フランスの最も美しい村(※)に選ばれた街。樹齢150年を超えるブラタナスの樹が魅力的な自由の広場が、村の中心にある。樹の足元には1907年に造られた泉が設置され、アーケードが立ち並ぶ18世紀の屋根付きの昔からの市場が周囲を取り囲んでいる。広場では住民が団らんしており、居心地の良い空間が形成されている。町全体のカラーは素朴なクリーム・橙・茶色。

※フランスの田舎の小さな村の歴史遺産の価値の向上や保護を目的とし、厳しい条件をクリアした村が「フランスの最も美しい村」として認定されている。

## 📍 ヴィルフランシュ・シュル・メール (Villefranche-sur-Mer)



まるで太陽のような橙や黄色が際立つ、海沿いの街。



路地が縦横無尽に走る



町全体が明るい配色で包まれている

コート・ダジュール地方の地中海に面した港町。港通りから奥は中世の面影が残る旧市街で、坂道をのぼると、建物の間から地中海の絶景が広がる。旧市街は、曲がりくねった石畳の小路と、自動車の乗り入れが制限された路地とで込み入った迷宮のようになっている。オレンジ・黄を中心としたはっきりとした色合いの目立つ外壁と、海の青さとの対比がこれ以上に無く、美しい。



坂道を振り返ると地中海

## 📍 グリモー (Grimaud)



街の中の小さな広場と、木の周りで談笑する人々。



シンメトリーの泉



丘の上に建つグリモー城跡

コートダジュールにある中世の城(グリモー城)を中心としたグリモーの村落。丘の上に11世紀に建てられた歴史的建造物である城があり、城壁・古い小屋が一部残されている。丘からは美しいのどかな景色を望むことができる。町全体の建物は暖かな黄色い色合いで統一されている。地中海地方のぼかぼかとした陽気が心地よく、広場のベンチでは住民が談笑していた。



グリモー城からの景色

## 📍 コルマル (Colmar)



パレットのようなカラフルな色合いが、この街の華やかさを際立たせる



木組みの家(コロンバージュ)



美女と野獣など様々な作品の舞台

フランス東部アルザス地方にある町。フランスでありながらアルザス地方特有のドイツらしさを残したコルマルは、中世の趣を残す美しい街並みが残されている。フランスで最も木組みの家が見られるのがアルザス地方で、これらの地方ではコロンバージュと呼ばれる。青・黄・緑・赤など寒色暖色問わず様々な色合いで彩られる外観は、つい目を奪われる。



ハウルの動く城のモデルとなった建物

# インターンシップ



パリにある建築事務所（田根剛設計事務所・隈研吾事務所）2カ所で短期インターンシップを実施した。ここでは日本とフランスでの働き方の違いを痛感した。2つの事務所の共通点は、役職関係なく多くの所員が一つの大きなテーブルに集まりランチタイムを楽しんでいたこと、仕事とプライベートを明確に分け、双方を両立させる時間の使い方をしていたことだ。共に日本人建築家の事務所であるため、日本での働き方と共通する部分も多いが、根本的な仕事の捉え方がわずかに異なるように感じた。プロジェクトにも密に関わることができ、価値のある充実したインターンシップとなった。

## 田根剛設計事務所 Atelier Tsuyoshi Tane Architects ATTA



現地のインターン生や社員の方と食べる昼食。



田根剛さんとの記念写真

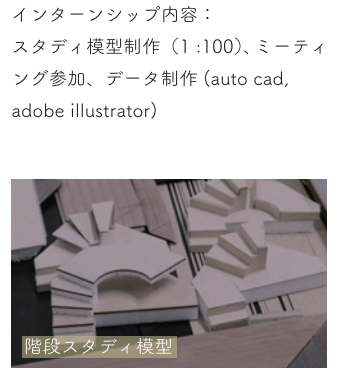


模型作業風景

住所 : 104 rue Oberkampf F-75011 Paris France  
実習期間: 2021年12月03日(金)～12月22日(金)  
2週間のインターンシップに参加。私は、東京都にある某住宅のプロジェクトに参加し、スタディ模型制作・ミーティング参加・データ制作(auto cad, adobe illustrator)を行った。



制作した住宅模型(1/50)



階段スタディ模型

インターンシップ内容:  
スタディ模型制作(1:100)、ミーティング参加、データ制作(auto cad, adobe illustrator)

## 隈研吾事務所 KUMA&ASSOCIATES EUROPE



同じ修士課程でインターン生であるみんなと食べる昼食。



隈研吾事務所(内観)



パソコンでの作業風景

住所 : 104 rue Oberkampf F-75011 Paris France  
実習期間: 2022年1月3日(月)～1月21日(金)  
3週間のインターンシップに参加。フランス北西部ノルマンディ地方にある日仏の歴史的な構法をハイブリッドさせることをコンセプトとした商業施設のプロジェクトに参加し、敷地模型製作・ライノセラスデータ作成・ミーティング参加などを行った。



制作した敷地模型(1/500)



敷地写真

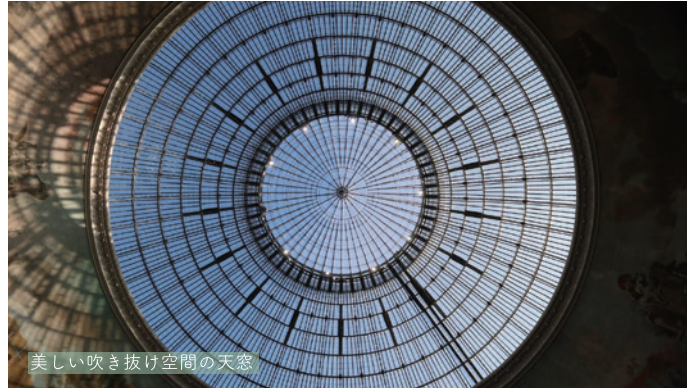
インターンシップ内容:  
模型製作(1/500)、模型梱包作業、データ整理(ライノセラス)、模型材料買い出し、プロジェクト内容把握、施主とのミーティング参加(2時間)



安藤忠雄の最新作である美術館。18世紀に穀物等の貿易商品の取引所として建設された歴史的建造物を美術館へコンバージョンした。神殿のようにも見える円形の建物で、中央の大きな吹き抜けの空間に、安藤忠雄らしい打ちっばなしのコンクリートでできた円筒がそびえ、その周りを展示室が取り囲む形となっている。暖かな天然光が差し込むこのガラスと鉄の天井（クーポール）と、それを彩る壁画が美しい。

設計：安藤忠雄 用途：美術館

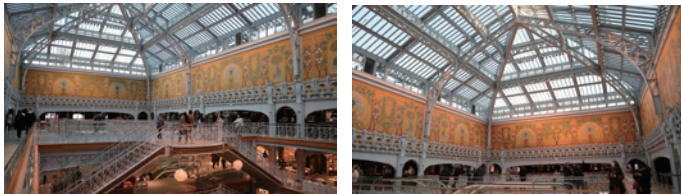
2021年に完成した新しいパリ建築のコンバージョンとリノベーションを紹介。



美しい吹き抜け空間の天窗



正面ファサード。1889年にパリ万博にてコリント様式の円柱と彫刻が増築。



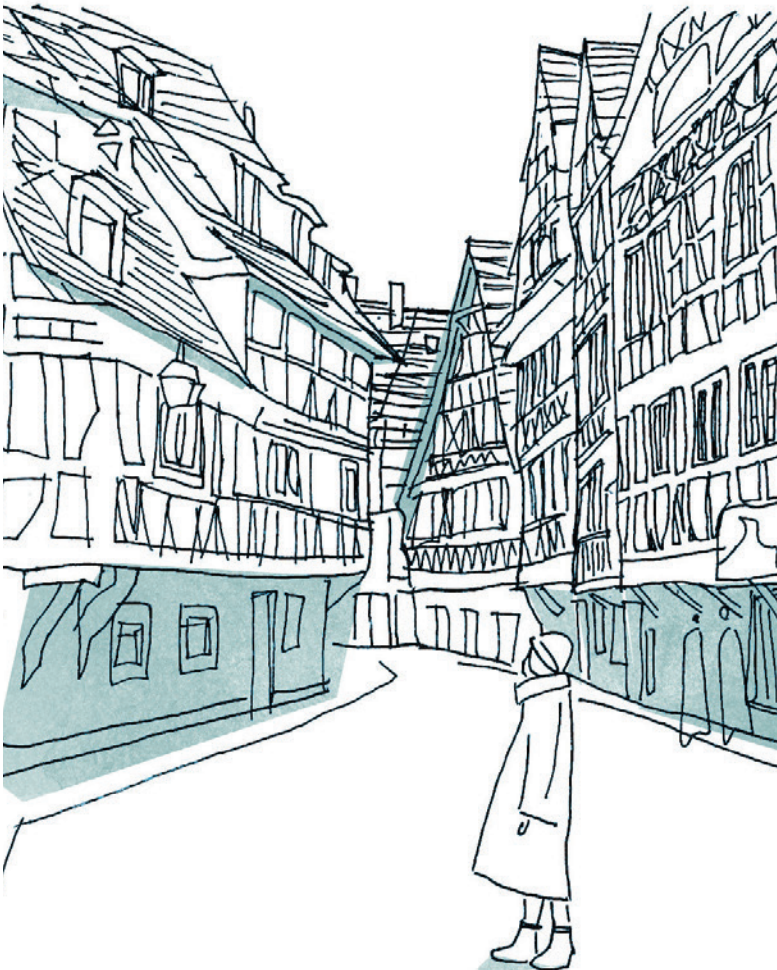
1870年創業の百貨店サマリテーヌのリノベーション。魅力は、ボン・ヌフ館と呼ばれる建物の建築デザインや内部装飾にふんだんに織り込まれたアール・ヌーヴォー様式だ。新設した精緻なウェーブのかかったガラスの外観には、リヴォリ通りに並ぶ建物や青空が映しだされ、クラシックな街並みの中でその美しさがひとときわ目を惹く。

設計：SANAA 用途：百貨店・ホテル・スパなど



ボン・ヌフ館内部の吹き抜け。手摺りの繊細な装飾が美しい。

# おわりに



この度は埼玉建築設計監理協会賞を頂いたことでこのような貴重な機会を作ることができ、誠にありがとうございました。この2ヵ月間のフランス海外研修は私の人生にとって決して忘れることのない大切な財産になりました。街づくり・建築の知識だけでなく、人生に対する考え方やグローバルな視点でのものの見方を学ぶことが出来ました。

これからもぜひ、建築学生のためにこのような機会を与えてくださる卒業設計コンクールを継続して頂けることを願っています。

最後に、埼玉建築設計監理協会の関係者のみなさま、卒業設計コンクールで審査員をして頂いたみなさま、最後まで卒業設計のご指導いただいた櫻井義夫教授に、心から感謝申し上げます。

2022.02.21

磯永涼香